

はしがき

グローバル化が進行し、また地球環境が変化する中であって、私たちは、政治・経済の新しいあり方を模索し、そして何より、私たち自身が楽しくいきいきとした人生を送ることのできる持続可能な社会を設計して、その実現をはかる必要があります。そのような今後の新しい社会を創生するにあたって、大学生であるみなさんの英語の実力は不可欠です。というのも、英語母語話者のみならず、世界中の多くの人々の考えや社会を英語の情報によって知ること、そしてその中で自らの観察や思索を研ぎ澄まし、海外の人々とコミュニケーションを取りながら自分のアイデアや思いを英語で伝えて行くことが、どうしても必要になるからです。本書 *Aspects of British Culture: Academic Approaches* は、英語の実力を身につけ向上させたいと願うみなさんのために編纂されました。

本書には、類書に見られない重要な特徴がありますが、それは、こうした英語の実力を培うという目標と直結しています。リーディング教材は、いずれもイギリスの文化論を基礎に据えています。この「文化」には、英語の母国イギリスにフォーカスしつつも、広く人文科学、社会科学、自然科学の内容を豊かに含んでいます。それは、みなさんが今後の専門的研究や社会での仕事において、いかなる分野で活躍するに際しても必ず資するものである、ということを念頭においています。ですから、どの英文も、学問的・専門的に意味のある内容になっています。本書の副題を *Academic Approaches* とした理由はここにあります。また、こうしたリーディング教材を軸に各種の問題演習が設けられていますが、それらはいずれも、英語情報を正確に理解し、その内容を自律的に整理したり再構成したりしながら、いつでもさまざまな角度から情報発信できるように準備することを念頭において作成されています。実際の英語運用に際して不可欠な音声面への配慮も行き届いています。「本書の構成と使い方」も併せてご覧いただき、この教科書を存分に使いこなしていただきたいと思います。

英語学習や英語教育については、今日に至るまで、さまざまな議論があり、また数々の有用な方法が示されてきました。ただ、その基本にあるのは、質の高い英文を的確な解説・指導によって、そしてまた強い学習意欲をもって理解して吸収し、発信に備える、ということに尽きると思います。本書の各章の英文には、これまでのみなさんの知識や思索に大きなインパクトを与える内容がぎっしり詰まっているはずです。それらに対するアカデミックな関心を大いに高めつつ、英語の実力を確かなものにしていただきたいと思います。

著者一同

本書の構成と使い方

ここでは、*Aspects of British Culture: Academic Approaches* の構成や問題演習の内容、ねらいなどをまとめています。本書の特徴をよく理解して存分に使いこなしてください。

本書の構成

本書は、アカデミックな形でイギリスの文化に焦点を当てながら、さまざまな学問分野の基盤として有益な内容を厳選して英語教材にまとめています。Part IからPart IVまで4つのパートに分かれていますが、この分類はイギリスの文化的特徴を示すとともに、さまざまな学問分野への切り口にもなっています。

各章のタスク

- 1. 導入文：**各章の冒頭にあって、その章で学ぶ文化的内容を日本語で簡潔に整理しました。Reading Passageの内容について、この導入文から予測してください。
- 2. Warm-Up：**各章の内容にかかわる準備的な英問英答や選択式問題です。「これまで意外に気づかなかった」というような事項も含まれています。視覚情報をこまめにする練習でもあるので、よく考えて英語で答えましょう。
- 3. Vocabulary-Building：**英語の実力向上に大きく貢献するのは、語彙力です。それも、ある英単語を別の英単語で置き換えたり、英語で説明したりすることのできる語彙力は、実際に英語を使う場合、非常に重要です。ここでは、各章に出てくる基本的な単語について、その定義や同義語を英語に結び付けていきます。また、Reading Passageで当該の単語が出てきたら、すぐに同義語や英語での意味に言い換える練習をするのもよいでしょう。
- 4. While Reading：**英文を読んでいて、最初は内容が頭に入ってくるのに、途中から文脈が分からなくなることがあります。それは英文読解の集中力が持続しないためですが、集中力を持続させるには、「何について語っているのか」ということを英文を読む側が常に意識していることが肝要です。この While Readingでは、そのための手助けを予め日本語で示してありますから、その内容をいつも意識するよう心がけてください。やがて日本語の手助けがなくても集中力が持続するようになります。

- 5. Reading Passage :** 各章の中心となる Reading Passage はいずれも、この教科書のための書き下ろしで、大学の授業を想定したアカデミックな内容です。日本人向けに易しくしているというようなことは一切ありませんから、ホンモノの英語情報だと思って英文理解に努めてください。そして、英文の意味を正確に把握できているか不安な箇所は、授業で積極的に確認したり高校までの学習内容を復習したりしてください。文章を一度しっかりと把握できれば、次に同じ文章を読む際に、スピードも上がるでしょう。こうした練習は、英文読解力のみならず、ライティングやリスニング、スピーキングの実力向上にも役立ちます。補足説明が必要と思われる箇所には NOTES がありますから、参考にしてください。
- 6. Getting the Gist :** Reading Passage の英文を確実に理解した上で、ここでは True or False 形式のリスニング問題を解きます。本文の趣旨を正しく理解できているか、よく確かめてください。
- 7. Looking into the Details :** Reading Passage の内容に関して英文で問われ、英作文で答える問題です。解答は英単語 1 語で済ませるのではなく、できるだけ文で答えられるようにしましょう。また、表を用いて情報を再構成する問題もあります。
- 8. Summarising :** Reading Passage の内容をしっかりと頭に入れた上で、その内容を英語で要約します。空欄補充形式の問題ですが、Reading Passage の文脈やキーワードをしっかりと理解していないと答えられません。この要約を進めつつ、もう一度 Reading Passage を集中して読んでください。文中のどの箇所が言い換えられているのか考えましょう。
- 9. Conversation and Writing :** Reading Passage の内容を会話表現に展開しましょう。Professor Patel と学生のやり取りが基本になっています。場面として設定されているのは主に日本の大学ですが、ちょっと留学した気分を取り組むとライティングの力もつき、楽しい英会話練習につながるはずです。
- 10. Extra Activities :** 各章の学習内容に関連させつつ、英語を使う上でぜひ必要と思われる事項を精選して問題演習の形にまとめました。語彙力をはじめ、英語情報の処理能力向上に役立ててください。これまで気づかずにいた英語のツボが見えてきます。



Contents

Part I Diversity

Introduction	8
--------------------	---

Chapter 1

The Country of Diversity	10
--------------------------------	----

Chapter 2

England, Wales, Scotland, and Northern Ireland	16
--	----

Chapter 3

The Power of the Commonwealth	22
-------------------------------------	----

Chapter 4

The Birth of Cultural Studies in the UK	28
---	----

Part II Communication

Introduction	34
--------------------	----

Chapter 5

The Languages of the UK	36
-------------------------------	----

Chapter 6

The Development of Journalism in the UK	42
---	----

Chapter 7

The Vessel of Worldwide Art and Culture	48
---	----

Chapter 8

The Relationship between Japan and the UK	54
---	----





Part III Institutions

Introduction	60
Chapter 9	
The History of British Democracy	62
Chapter 10	
The British Debate about the Economy	68
Chapter 11	
With or Without God: The Development of the Natural Sciences	74

Part IV British Common Sense

Introduction	80
Chapter 12	
The Country of Satire	82
Chapter 13	
Nature and British People	88
Chapter 14	
An Oxbridge Education	94
Chapter 15	
British Community Life	100



Part I

Diversity

私たちが生きる21世紀の世界にあって、イギリスの魅力はどんなところにあるのでしょうか。英語発祥の国の文化や歴史を知ってブリティッシュ・イングリッシュを身につけたいという人もいらっしゃるでしょうし、ヨーロッパの大国でありながらその独自の政治・経済・社会の動向からは目が離せないという方もおられるでしょう。感動的なシェイクスピア演劇を原語で味わいたいという人もあれば、オクスフォードやケンブリッジといった大学に留学したいと思う人も少なくないでしょう。コッツウォルズのかわいらしい街並みや美しい湖水地方の風景に思いをはせる人もいらっしゃると思います。

そういういろいろな魅力がぎっしり詰まったイギリスですが、イギリスの魅力の源泉には、この国が有する実に豊かなダイバーシティ（多様性）があり、それが今日でも脈々と受け継がれていることには、まず注目する必要があります。イギリスには、もともとケルト人と呼ばれる人々が住んでいましたが、そこにローマ人やゲルマン人、ノルマン人などがやってきて定住しました。英語も、そうした民族的多様性を反映しつつ成立した言語です。ですから英語はドイツ語的でもあればフランス語的でもあります。ロンドンという首都の名は、ローマ人による「ロンディニウム」という呼称が起源とされていますが、いやケルト人の呼称に起源があるとする説もあって論争は今日に及んでいます。さまざまな人々が、それぞれ自分の国としてイギリスに積極

Introduction

的にかかわり、その多様なかかわりの中から今日のイギリスが次第に形づくられてきたのです。

もちろん19世紀のように、イギリスが巨大な一つの帝国として世界の覇権を握った時代もありました。しかし、この国の覇権は国としての単一の価値観を他国に押しつけるというものでは必ずしもありませんでした。むしろ世界のさまざまな地域の多様性を貪欲に吸収し、そうすることで力を得ていたという特徴があったのです。そもそも、イギリス、ブリテンと言っても、もとはと言えば多様な民族の混ざり合いから生まれたのですから、巨大な帝国も一皮むけば相異なる価値観が互いに誇りを持って共存しているということになります。キリスト教道徳を前面に押し出しつつも宗教的懐疑論が根強く存在したり、自由主義経済を謳歌していた首都ロンドンにあって共産主義社会を理想とする著作が刊行されたりといった事情は、まさにイギリスのこうした多様性によるものと言えるでしょう。

そういうイギリスが、多文化共生を重要な鍵とする21世紀社会においてどのようなしなやかさを示すのか。まずPart Iでは、英語の学習を通じて、こうしたイギリスの多様性とそのしなやかさをじっくり考えてみましょう。

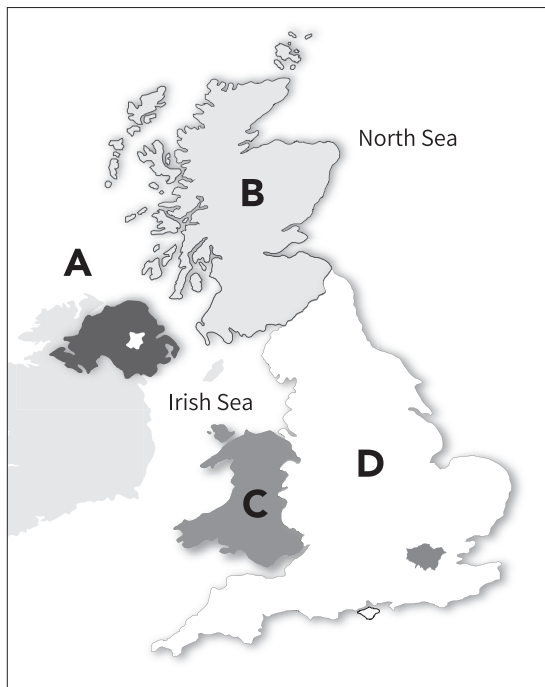
The Country of Diversity

皆さんは、イギリスについてどんな印象をお持ちですか？ 英語、アフタヌーンティー、イングリッシュガーデン、パブ、ジェントルマン、サッカー、シェイクスピアなどなど。最近では、欧州連合 (EU) から離脱したことでも話題になりました。しかし、イギリスの重要な特質は、そのダイバーシティ (多様性) にあります。多様な民族や言語が融合する中で、この国は形成されてきたのです。第1章では、イギリスが大事にする多様性について考えてみましょう。



Warm-Up

以下の地図を見て、設問に答えましょう。



1. Choose the appropriate letter on the map for each blank below.

- a. England ()
- b. Scotland ()
- c. Wales ()
- d. Northern Ireland ()

2. What independent country has a border with the United Kingdom?

3. What is the name of the smallest grey area in D?



Vocabulary-Building

次の語句に最も適切な定義や同義語を選んで記号で答えましょう。

- | | | | |
|----------------|-----|--------------|-----|
| 1. accent | () | 6. immigrant | () |
| 2. avenge | () | 7. merge | () |
| 3. bestow | () | 8. preserve | () |
| 4. comprise | () | 9. thrive | () |
| 5. illustrious | () | 10. vow | () |

- a. to combine or cause to combine to form a single thing
- b. to promise to do a specific thing
- c. to take revenge for
- d. to consist of
- e. to keep something in its original state or in good condition
- f. a distinctive way of pronouncing a language
- g. to prosper; to flourish
- h. a person who comes to live permanently in a foreign country
- i. very famous and much admired because of what you have done
- j. to give



While Reading

次の点に注目しながら本文を読みましょう。

- 何がイギリスに diversity をもたらしているのだろう。
- 「イギリス人」とはどんな人たちのことだろう。
- diversity は、イギリスや、イギリスの人々に何をもたらしてくれるのだろう。





Kazuo Ishiguro is a world-famous author of English novels such as *The Remains of the Day* and *Never Let Me Go*, which have been adapted into popular movies. He grew up in Guildford, a small town south of London, after moving from Japan at the age of five. In the UK, he is considered as British as anybody else and he speaks English with a native accent. British people are just as proud of him as the Japanese are for winning the Nobel Prize for Literature in 2017; he was even knighted in 2019, one of the highest honours bestowed by the Queen, and is now officially referred to as 'Sir Kazuo Ishiguro'. You will find people of many different colours, races, and ethnic backgrounds in the UK who consider themselves, and are considered to be, British. Ishiguro's success is typical of a country that thrives on its diversity. People have always come from elsewhere to enrich the UK's culture.

The UK has always been a diverse country. The earliest people mentioned in history as living in the British Isles – which consist of Britain, Ireland, and hundreds of smaller islands – are the Celts, who had come from Europe. The Romans called the biggest island *Britannia*, which gives us the modern-day name, 'Britain'. They conquered the southern part of the island in 43 AD and established many large towns and cities, such as *Londinium*, modern-day London. You can see the beautifully preserved remains of a Roman town in St Albans today. The Romans ruled southern Britain for almost four centuries until 410 AD, but then many invaders came from northern Europe. Two of these invaders were the Angles and Saxons, from modern-day Germany. It is from the Angles that the modern word 'England' derives. King Arthur is a legendary hero of the Celts who is said to have resisted these invaders.



St Albans Cathedral

In 1066, Anglo-Saxon rule was replaced by that of the Normans from France. French was commonly spoken at the royal court and many words of French origin entered the language. Many famous English writers were influenced by European literature. The most well-known English writer of all, William Shakespeare, wrote many poems called 'sonnets', an Italian kind of poetry, addressed to a mysterious young man and 'dark lady'. A lot of his plays are also European in origin. The story of *Romeo and Juliet*, for example, is apparently taken from Luigi da Porto's *Giulietta e Romeo*: two young lovers from feuding Italian families fall in love but a tragic misunderstanding results in

both their deaths. The story of *Hamlet*, meanwhile, about a Danish prince who vows to avenge his father's death at the hands of his uncle, is said to be based on the Danish writer Saxo Grammaticus's *Vita Amlethi* ('The Life of Amleth').

The United Kingdom today is made up of four countries: England, Wales, Scotland, and Northern Ireland. Ireland and Wales, both Celtic nations, came under English influence after the Norman invasion. In 1603, James VI of Scotland inherited the English throne, thus uniting the two kingdoms and bringing all of Britain under one monarch. In 1800, Britain and Ireland merged to form the United Kingdom of Great Britain and Ireland. Many of the most illustrious British writers came from outside England: the seventeenth-century poet George Herbert, famous among British schoolchildren for his 'Easter Wings' shape poem, was Welsh; the poet, novelist and satirist Jonathan Swift, author of *Gulliver's Travels*, came from Ireland; and the eighteenth-century economist Adam Smith, the founder of modern-day free-market economics, was Scottish.

During the nineteenth and early twentieth centuries, the UK built up an empire that, at its height, comprised a quarter of the globe, the largest in history. After the Second World War, many of its colonies gained independence, though cultural ties with the UK remained strong. The novelist Sir V. S. Naipaul, born in the former British colony of Trinidad and Tobago in the Caribbean, was educated at Oxford and was later knighted by the Queen and awarded the Nobel Prize for Literature, just as Ishiguro later would be. British culture has always depended on its diversity. Ishiguro is thus one of many immigrants over the course of British history who have helped to shape what the UK is today. Ishiguro's words about writers could just as well apply to the UK itself: 'If we are to play an important role in this uncertain future, if we are to get the best from the writers of today and tomorrow, I believe we must become more diverse'.

(753 words)

NOTES

L.6 he was even knighted: ナイト爵に叙せられること。これにより、男性はSir、女性はLadyの称号を付けて呼ばれる。**L.14 the Celts:** ケルト人。古代において、小アジアから広くヨーロッパに分布していたインド・ヨーロッパ語系の言語を話す人々を指す。**L.23 St Albans:** セント・オールバンズ。ロンドンの北約22キロの所にあり、古代ローマの時代からの宿場町。美しい大聖堂がある。**L.28 the Normans:** ノルマン人。もとはスカンディナヴィアに住んでいたが、10世紀にノルマンディー（フランス北西部）を征服して定住。その後、1066年にイギリスを征服した。**L.34 Luigi da Porto:** (1485-1529) イタリアの作家。**L.38 Saxo Grammaticus:** (1160頃-1220頃) 中世デンマークの歴史家。**L.46 'Easter Wings' shape poem:** 「イースター・ウィング型の詩」。詩の視覚的体裁に、天へと力強く羽ばたく翼の形を反映させた一群の詩を指す。本文にある通り、ジョージ・ハーバートの作品が有名だが、児童文学などでも使われることが多い。**L.47 satirist:** 風刺作者。風刺とは、社会や人物の欠点や問題点などを、間接的表現によって鋭く指摘したもの。**L.47 Gulliver's Travels:** p.57 NOTES参照。**L.48 Adam Smith:** p.71 NOTES参照。**L.51 the Second World War:** p.25 NOTES参照。



Getting the Gist



DL 03



CD1-07

音声を聞いて本文の内容と合うものにはTを、異なるものにはFを記しましょう。

1. () 2. () 3. () 4. () 5. ()



Looking into the Details

本文を参照しながら次の問いに答えましょう。できるだけ文で答えましょう。

- What did Kazuo Ishiguro win in 2017?

- Approximately how many years did the Romans rule most of modern-day England?

- When did the Normans from France conquer England?

- Where was Sir V.S. Naipaul born and educated?



Summarising

次の空所に適当な語句を入れて本文の summary を完成させましょう。

The United Kingdom has always been a ⁽¹⁾ _____ (). Several peoples such as the Celts, the ⁽²⁾ _____ (), the Anglo-Saxons, and the Normans came to the British Isles one after another. British culture has also been greatly ⁽³⁾ _____ () European culture. William Shakespeare is a good example: most of his works are based on European legends and stories. Moreover, the UK is not simply a single country and ⁽⁴⁾ _____ () four countries. Historically, each of them has produced many great writers and scholars. For example, Jonathan Swift, author of *Gulliver's Travels*, came from Ireland. After World War II, the UK saw many former ⁽⁵⁾ _____ () become ⁽⁶⁾ _____ (), but it still maintains strong ties with them. Many ⁽⁷⁾ _____ () from all over the world including the Japanese-born writer Kazuo Ishiguro have helped create what the UK is now.



Conversation and Writing



DL 04



CD1-08

本文の語句を参考にして () 内の日本語に合うように次の会話を完成させましょう。
完成したら、クラスメイトと共有し役割を決めて練習しましょう。

Yuki: I thought the UK was a country of Anglo-Saxons, but I am so amazed at its diversity.

Prof. Patel: It really is! In fact, ¹ _____.
(イギリスはずっと多様性の国でしたよ)

Did you know the English language today was not just a descendant of Anglo-Saxon? Many English words come from the languages of the Continental European countries such as French, Latin, Greek, and Scandinavian.

Yuki: ² _____?
(どの言語が英語に一番影響を与えたと思いますか)

Prof. Patel: ³ _____.
(ヴァイキングたちは英語に多くの基本的な語を持ち込みました)

For example, 'sky', originally meaning 'cloud' in their language, replaced a native word which survives as 'heaven'. However, French and Latin words make up about 60% of modern English vocabulary.

Yuki: ⁴ _____ of foreign influence on other aspects of
(一つ例を挙げてくれますか)
language?

Prof. Patel: It's a difficult question. It is said that old Scandinavian languages have a strong influence on Yorkshire accents. However, it's hard to prove it.



Extra Activities

1 下記の単語群の共通点は何でしょうか。ただし一語、関係ないものがあります。それはどれでしょうか。クラスメイトと話し合って考えましょう。

author

founder

immigrant

invader

lover

writer

monarch

novelist

sonnet

architect

jockey

uncle

2 本文中から、**1**で見つけたものと同じ共通点を持つ単語を3つ探しましょう。

() () ()